

保育者の作法

園の雰囲気は、保育者一人ひとりの言動や立ち居振る舞いによってつくり、それが園の文化になっていきます。

よりよい園の文化、保育の向上につながる作法とは？

現場に詳しい先生方に話し合っていたくコーナーです。



井上さく子先生
元公立保育園園長・
保育環境アドバイザー



岩井久美子先生
まちの保育園
六本木園長

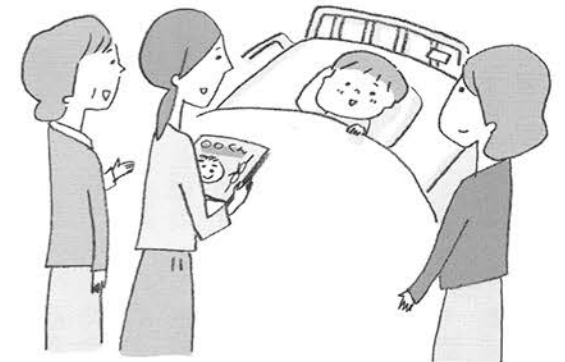


汐見和恵先生
フレーベル
西が丘みらい園園長

今月のシーン

お見舞い

Q. 子どもが入院したという連絡を保護者から受けました。お見舞いはどうしたらよいですか。



キホンの作法

保護者の了解を得たうえで、相手の負担にならないようなお見舞いを

短期間ではなく、ある程度、長期にわたる入院や自宅療養の知らせを受けた場合は、病气やけがの内容や状態を確認し、園としてお見舞いに行くかどうか検討します。そのうえで、保護者の了解を得てから伺うようにしましょう。お見舞いは、相手の負担にならないように人数は最小限にとどめます。「みんな待っているよ」「お大事に」などと伝え、時間も短く切り上げます。

なお、公立園では、見舞金や品物を持参することは禁じられています。子どもの年齢にもよりますが、クラスの子どもたちからの絵や手紙などを渡すと、子どもの励みになるかもしれません。

私たちの考える作法

Point ① 病气やけがの連絡を受けた時の対応を
確認しておきましょう

必ず園長や
看護師につなぐ

●職員が電話などで園児の病欠連絡を受けた時、1〜2日で治る程度の病气やけがではない場合は、必ず園長や看護師につなぐよう指導しています。不在の場合も「園長は留守にしておりますので、後からお電話をかけさせていただきます」と伝えるようにしています。
(岩井先生)

●きょうだいが在園しているなどの場合は、送迎時に園長が立ち合います。直接保護者から話を聞きます。(井上先生)

Point ② 知り得た情報は
自分だけにとどめず、
園全体で共有します

1人で判断せず
園として考える

●お見舞いに行く、行かないは、場合によりますが、担任だけでなく園長や主任と相談して、だれがいつ行くかなどを決めるようにします。(汐見先生)

●子どもではなく保護者が長期入院した時、園としてお見舞いに伺ったことがあります。事情によって対応は異なりますので、園全体で情報を共有することが大切です。(井上先生)

Point ③ 病气やけがは個人情報
として慎重な扱いが
求められます

不用意に保護者や
子どもに伝えない

●園から「〇〇ちゃんが入院した」などとほかの保護者や子どもに伝えることは原則、しません。病气やけがが深刻である場合は、保護者に伝えてよいのか、どう伝えるのかなどを聞き、確認をとってかたちにします。

子どもに「〇〇ちゃんはどうしてお休みなの？」などと聞かれた時は、心配している気持ちを大切に受け止め、「早く園に来るといいね」などと言うようにしています。
(汐見先生)